

平成 20 年度 「地域再生を担う人づくり支援調査」

余呉町の地域資源を活かした観光・交流の促進による地域再生

概要版

．事業の背景と目的

1．余呉町の位置と地勢

余呉町は、滋賀県の最北端にある山村地域である。琵琶湖の水源に位置する森林や余呉湖など豊かな自然に恵まれており、これらの豊富な地域資源を十分に活用した振興を推進していくべき地域である。

2．地域の特徴

しかし豊富な資源を有する半面、余呉町は過疎地域に指定されている地域であり、過疎化・高齢化が進んでいる。このような課題に対応していくためには、地域産業の振興と地域コミュニティ再生のうごきを強化していくこと必要である。

余呉町には、余呉湖や琵琶湖水源の森などの自然をはじめ、歴史や食文化などの地域資源がある。また、伝承・伝説等に裏付けられたストーリー性の高い自然環境（余呉湖など）があると同時に、観光交流施設（「ウッディパル余呉」など）の存在、多彩な農林水産資源といった、特徴的かつ今後の振興において起爆剤となりうるような特徴を数多く持つ。

3．観光・交流を軸にした町づくり

さらに余呉町では、町づくりの基本構想の中に「観光・交流によるまちづくり」を位置づけている。京阪神や中京圏からのアクセスが良いという立地条件は地域の強みであり、これを生かす上で観光・交流は重要な地域産業となる可能性が高い。これまでも余呉町は、観光・交流事業を進めるためのさまざまな施設等を整備してきた。このように地域には、余呉湖の自然と歴史、様々な観光施設などの資源があるが、それらを活かしきれていないのが現状である。

4．観光・交流を軸にしたまちづくりを進める上での課題

地域再生の取組においても、効果を出していくためには、PDCA マネジメントの考え方を取り入れ活動を継続的にレベルアップしていく必要がある。そのためにはまず、地域の資源を組み合わせるプログラムに仕立て、地域の様々な人材をとりまとめられるリーダー・マネージャーが必要である。特に、観光・交流事業の中核施設である「ウッディパル余呉」の有効活用と誘客促進が重要な課題である。地域再生に向け、様々な商品開発・プログラム

開発はもちろん必要であると同時に、それを企画・実施・マネジメントできる人材を育成することが重要である。

5. 本事業の目的

本事業では、車座研修会とOJT（実地活動）を通じてPDCAマネジメントサイクルを回すことを実践することで、以下の2点を達成することを目的として取組を実施した。

マネジメント能力が高い地域リーダー・マネージャーを発掘育成する
取組を継続的に改善していくための仕組みを導入する。

. 活動概要

1. 車座研修会

本事業の活動主軸のひとつである車座研修会では、研修生個々の取組について洗い出し、課題を明らかにするとともに取り組み目標を設定した。また、目標を設定するだけにとどまらず、研修生と講師による検討会を繰り返しもつことで、それぞれが行っている取組の情報共有と連携を図り、今後の取り組みについての共通認識を醸成した。

2. 地域づくりのOJT

そして本事業のもうひとつの活動主軸である地域づくりのOJTについては、マネジメント能力を有する地域再生のリーダーを育成することを目的にOJTの実践研修を実施した。研修を実施するにあたっては、参加者の内発的な取組を引き出すことを大切にしながら、地域づくりに向けた実践活動を行うことを念頭に置いた。単に実施した取組の成否をみるだけではなく、PDCAマネジメントサイクルを取組に導入することを目的としたOJTである。

具体的な手法としては、来客者に対するアンケート調査と、ターゲットとなる客層を対象としたグループインタビュー調査である。

アンケート調査では、アンケート調査票の作成と集計分析を通じて、地域の観光施設が抱える課題を客観的に把握し分析する方法を学んだ。グループインタビュー調査では、誘客プログラムの企画・運営・検証を通じて、PDCAサイクルを一通り回すことができた。

. 広域的な取り組み

1. OJTによる広域的な取り組み

OJTにおける広域的な取り組みとしては、次のような視点で行った。アンケート調査においては、余呉町の中核観光施設「ウッディパル余呉」の来訪者（京阪神・中京・北陸地域などからの来訪者を含む）を対象にアンケート調査を実施した。グループインタビューにおいては、主に大津市・京都市などの都市部の住民をターゲットとして調査を行った。

・本事業を通じて得られた成果

1. 人材育成

このような取り組みを実施した結果、本事業を通じて次のような成果が得られた。

まず、地域再生の取組を主導する中核的リーダーを育成できたことが挙げられる。特に、リーダーを中心とした地域再生の取組において、PDCA マネジメントを実施できる人材として育成することができたことは、重要な成果である。

2. PDCA マネジメントサイクルの導入

このような考え方とスキルについて学びとり、実践する段階までたどり着いたことにより、地域再生の取組に PDCA マネジメントの考え方を取り入れ、取組の企画 - 実施 - 振り返り - 改善のサイクルを導入できた。その結果、地域において自立継続的に取組を改善する基盤ができた。

3. 誘客に向けたプログラム開発

さらに、自立した経営組織として誘客に向けたプログラム開発を、自ら実践できるようになった。特に、研修参加者からの内発的なアイデアを形にするプロセスをみなで体感できたことが大きなポイントである。また、地域関係者の連携協力を基盤とし、必要に応じて外部の協力を得ながらプログラムを形にするプロセスを実践できたことは、広く誘客できるようにするための素地となった。

4. 課題と可能性の共有

また、中核施設である「ウッディパル余呉」の運営課題と可能性を共有することも重要な点である。この点については、研修参加者等による意見交換等を通じて、町の交流事業の中核施設である「ウッディパル余呉」の運営課題と可能性を明確化できた。また、上記課題と可能性を、関係者で共有し、共通認識をつくることができた。

5. 新たな地域再生プロデュース組織づくり

そして地域再生の担い手を育成すると同時に、新たな地域プロデュース組織を作ることも重要である。この点に対しては、研修参加者を中心として地域再生に取り組む新会社が設立された。今後は、上記の会社が中核施設「ウッディパル余呉」の管理運営を担いつつ、交流を通じた町づくりを推進していく予定である。

・今後の課題

今後、余呉町における地域再生を推進するにあたっては、以下のような課題が挙げられる。

1. 地域再生に向けた活動における PDCA マネジメントサイクルの定着

まず、本事業で発掘育成した人材のほかにも、地域の取組を牽引できる人材を発掘し、リーダー・マネージャーの層を厚くしていくことが望まれる。PDCA の考え方をもって地域再生の取組を改善していける人材を増やしていく必要がある。

2. 内発的な取組みが生まれる場の維持継続

次に、内発的な取組みが生まれる場を、一過性のものとせず維持継続していくことが重要な課題である。地域再生の取組は地域の多様な主体の連携により推進されるものであり、さまざまな地域関係者の人的ネットワークを強めていくことが必要である。また、新たな取組の創出や取組の継続発展を推進するための場を継続的に持つことも必要である。

3. 誘客プログラムの充実

そして、施設の経営状態向上だけにとどまらず、余呉町としての地域再生につなげていくためには、誘客プログラムをさらに充実化していく必要がある。そのためには交流を軸とした地域再生に向け、誘客プログラムを充実していくことが望まれる。また、地域の魅力を組み合わせ、総合的なプログラムに仕立ててゆく必要もある。

4. 情報発信

地域の再生のためには、情報発信も重要な課題である。都市部との交流促進に向け、地域外向けの情報発信の充実が望まれる。また、地域内の人材発掘や協力者の確保に向け、地域内向けの情報発信も重要になると考えられる。